

## 事業報告書

<p><b>日時</b></p>	<p>【石垣開催】：令和3年6月15日（火）10:00～16:30 延期          →令和3年8月10日（火）10:00～16:30 中止          ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催方法変更          【YouTube 動画配信】へ変更          令和4年2月7日（月）～2月14日（月）動画配信。          【うるま市開催】：令和3年11月19日（金）10:00～16:30</p>
<p><b>目的</b></p>	<p>啓発講座の受講機会などが限られる本島北部地域、離島地域に在住する自身のスキルアップを望む女性を対象として、様々なライフステージの中で自分の持てる能力を最大限発揮するため、ダイバーシティマインド、マネジメント力、論理的思考力等を伸ばし、職場、家庭、地域のあらゆる場所で活躍できる人材の育成をめざすことを目的とする。</p>
<p><b>対象</b></p>	<p>女性でスキルアップに関心のある方</p>
<p><b>講師</b></p>	<p>【石垣市開催】→中止          新垣 誠 氏（沖縄キリスト教学院大学人文学部長）          佐久川 真由美 氏（ベッセルホテル石垣島支配人）          高田 朝子 氏（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授）</p> <p>【うるま市開催】          村山 由香里 氏（リムリムラボ代表、元福岡県男女共同参画センター長）          幸喜 穂乃 氏（合同会社 Happy Joy 代表、人材育成コンサルタント）          高田 朝子 氏（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授）</p> <p>【YouTube 動画配信】          喜納 育江 氏（琉球大学国際地域創造学部教授）          高田 朝子 氏（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授）</p>
<p><b>会場</b></p>	<p>【石垣市開催】八重山合同庁舎2階 大講堂 → 中止          【うるま市開催】うるマルシェ2階会議室1. 2. 3          【YouTube 動画配信】YouTube</p>
<p><b>定員</b></p>	<p>各回 20 名程度（YouTube は定員なし）</p>
<p><b>参加者</b></p>	<p>【石垣市開催】申込者 14 名 → 中止          【うるま市開催】申込者 20 名 参加者 17 名          【YouTube 動画配信】申込者 68 名、動画視聴回数 122 回          ※沖縄県内全域で参加者（動画視聴者）を募集した。</p>
<p><b>講演内</b></p>	<p>【石垣市開催】 → 中止          【うるま市開催】次ページ頭へ</p>

**容**  
**(概要)**

**村山 由香里 氏 「ジェンダー&ダイバーシティ講座」 10:00～11:30**

講師は25年間の出版社経営のなかで、働く女性を応援する情報誌（フリーペーパー）を発行し、女性たちに1歩前へ出ようよというメッセージを込めた。最盛期には2万社の企業に送付していた。都会ではなく地元で活躍する身近な女性にフォーカスし紹介したり、セミナーを開くなど交流の場をつくることも行っていた。今の環境だけで過ごしているとなかなか突破口を見いだせない女性も多い中、違う環境や違う価値観を持つ人たちと交流することによってチャンスが生まれると説明した。

また、20代の一般企業での職務経験で、当時は女性がお茶くみをするのが当たり前とされていたり、男性のほうが女性より頭がいいなどの考え方が浸透していたが、そういった社会的・文化的性差や偏見・固定概念が「ジェンダー・バイアス」であると説明した。生きにくさ、もやもやの正体はジェンダーに起因することが多い。女性自身がジェンダーに気づいたり、知ること、自分自身の問題として考えることで社会的性差に捉われることが少なくなり生きやすくなる。さらに私たちの心の中にも無意識のジェンダー・バイアスがあり、「家庭の中では妻は夫に従うもの」「男が上で女が下」「決定するのは男性」などや東京五輪組織委員の発言などを例に挙げた。また国会の様子を見ても日本は男性議員が圧倒的に多く、企業や地域での会議でも男性が多い。私たちは「重要決定を行うのは男性」という印象を無意識に持っている。女性が政策・方針決定に参画することは、社会をつくるうえでとても重要であると述べた。

さらに、日本のジェンダーギャップ指数は世界156カ国中120位（政治分野では147位）で年々順位を下げている事を紹介しながら、女性の政治参画の必要性を話し、クオータ制（※）などの説明をした。女性が活躍する社会になるためには、みんなが意識を変えることで、法律が変わり、社会が変わることが必要。コロナで激変したからこそ、男性も女性も働き方も含め今が変わるチャンスなのではないかと受講生に伝えた。

※議員や会社役員などの女性の割合を、あらかじめ一定数に定めて積極的に起用する制度のこと。世界で130カ国が導入している。

**幸喜 穂乃 氏 「地域の女性リーダーに聞く！」 12:30～13:30**

講師は自身の経験を通して、子どもに体験や環境を与えるのは大事だが、子どもの育成だけではなくそれを支える大人の“人財”育成が必要であり、それが今の仕事につながっていると話した。「過去と他人は変えられない」。過去の意味付けと他人が変わるきっかけを与えることで、過去を失敗とするのか、あのことがあったから今を頑張っているとするのか。過去の意味付け次第で人が変わったり成長したりするきっかけになり、ポジティブに変換できるということが大事だと伝えた。

生きているのは主体的なので、自分で選んで決めたほうがいい。人がどうだからではなく、自分がこうありたいというのを求めていい。主体的に自分らしく生きる。もう一つ言うと自分のことは自分で決めるというのも自立であり、そのために大人が子どもにどれだけ選択肢を見せられるか、これしか選べなかったではなくてあれもこれも選べる中で私がこれを選んだというのが自分で責任を取ることにつながると説明した。

講師は最後に「それぞれが支配されている『こうあるべきという呪い』はなんですか、これからなにを自分で決めますか」と問いかけ、「自分が人生の主人公。これからどうしたいかが大事。それから過去を決めればいいと思います」と受講生に伝えた。

**高田 朝子 氏 「ロジカル&コミュニケーションスキルアップ講座」 13:30～16:30**

職場やパート先、PTAなどであなたの意見は通るか。もともと人は分かり合えない関係であり、人と人が関わると正解がなくなる。人は話している相手の見掛けや経歴などにもものすごく

影響されながら後ろにある背景を想像し話し、その中でどううまくやっていくか。そのことについて考えましようとした。

#### 【ワーク1 前後の列で新聞のある記事を伝える伝言ゲーム】

ワーク後、「説得したい、誰かに伝えないといけない、自分の話を相手に聞いてもらいたい」など、人に伝えるための具体的なポイントを挙げた。主語を使い、話に「～の件なんですけど～」と#ハッシュタグをつけ、さらに何が結論かというのを自分が分かっているということが大切。話を聞いて貰えない話し方として「価値観の押しつけ」「抽象的過ぎる」「具体性がない」「難しい言葉を使いたがる」「根拠がない」といった特徴を挙げ、ロジカル（論理的）に話すことは具体的で根拠のある話し方であり、例えば小学5年生（10才児）が完璧に納得するように話すと効果的と述べた。

#### 【ワーク2 「十人十色」】

男性と女性では能力に差がないが、性別による「こうあるべきだ」という思いこみで不都合が生じている場合がある。自信のない女性が多いが、能力の有無とは別であり、女性が自信がないのは自信を持てる場を与えられなかったからである。どうやって自信をつけていくか。成功体験の積み重ねが自信に繋がるので、まずは自分で自分を褒めてみましょうと説明した。

コミュニケーションは「返報性」で成り立っている。自分の誠意や気持ちを伝えるために、相手にわかるように言語化し、相手の分かる順番に話す。阿吽の呼吸は前提条件ではないので、人を動かすロジカルな話し方を意識し、自分の考え方を整理し、時にエビデンスとして数字を出しながら意思決定の精度をあげるのが大切と受講者に伝えた。



村山 由香里 氏



幸喜 穂乃 氏



高田 朝子 氏

#### 【YouTube 動画配信】

#### 喜納 育江 氏 「ジェンダー&ダイバーシティ講座」（動画 60分）

2015年に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が公布され、2020年までに社会のあらゆる分野において、指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標を掲げたが達成できなかった。女性の活躍やダイバーシティの実現を阻む要因として「1. 日本の後進性、2. 無意識の偏見、3. 常識、4. 低い人権意識」があると説明した。

##### 1. 「日本の後進性」

世界における日本のジェンダーギャップ指数が156カ国中120位という現状であり、国際社会における“ジェンダー”後進国で、政治に関する女性の参画が圧倒的に低い。アメリカはバイデン大統領になってから上下両院の女性議員の割合が過去最多を更新し、史上一度も女性が登用されることがないポジションに女性を多く登用し、さらに人種的マイノリティーを登用した。リーダーが「どういう属性の人を登用するか」ということを組織づくりの中で意識的に行っている。一方日本の衆議院は9.9%。G20で最低の数値であり、日本のリーダーも意識的に考える必要があると述べた。

## 2. 「無意識の偏見」

生存本能なので誰でも持っており、必ずしも悪意を伴わない、長い年月を掛けて刷り込まれた認識であり、この無意識の偏見によって客観的・正当な評価ができなくなっている場合があると説明した。

## 3. 「常識」

LGBTQ+時代の「男」と「女」の多様な性について、セクシャリティはグラデーションになっており「男」「女」とはっきり分けることができないと科学的に証明されている。男らしさ女らしさで話をするのは時代遅れになると説明。

## 4. 「低い人権意識」

自分の権利、そして自分以外の人の権利を社会は考えているのか、その時にダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（包摂）が必要になってくる。多様性が包摂され、意志をもった人々が一つのチームになって協働することが大切。人には「差異」があり、それが「差別」の原因となってきた。「差異はハンデではなく強み」という価値観を基準とすることが出来るのか。それがイノベーション（革新）に繋がっていくと説明した。

最後にSDGsについて、17の目標があるが、5番「ジェンダーの平等」を解決できれば他の目標も解決しやすいとされている。SDGsにおける「平等」とは「公平・公正」であること。同じ機会を与えるのと、同じ結果を与えることは違い、それが「誰ひとり取り残さない」SDGsに繋がっている。そして理想はありのままの自分が、何の障壁もなく、他の人々と同じ機会を得られることと受講者に伝えた。

## 高田 朝子 氏 「ロジカル&コミュニケーションスキルアップ講座」（動画 90 分）

### ・第1部

新型コロナウイルスにより社会が劇的に変化し、コロナで無くなってしまった日常がある。リモートワークなどが普及し少なからず働き方が変わってしまい、こういった変化の中で「話を通す能力」が必要とされ始めた。

前提条件として、もともと人は分かり合えない関係であり、人間は言葉の後ろを想像しながらコミュニケーションを取る。そのための工夫として、具体的には述語があり、主語を使い、話に「～の件なんですが～」と#ハッシュタグをつけ、何が結論かというのを自分が分かっていることが大切。話を聞いて貰えない話し方として「権威を出す」「価値観の押しつけ」「根拠がない」「抽象的過ぎる」「具体性がない」「難しい言葉を使いたがる」といった特徴をあげ、ロジカル（論理的）に話すことは具体的で根拠のある話し方であり、例えば小学5年生（10才児）が完璧に納得するように「難しいことを優しく話すことこそ賢い話し方」と述べた。

### ・第2部

自分の思い込みというのを人は必ず持っており、考え方の癖をマインドセットと言い、それは人生経験からつくり出されると説明した。

#### ～ワークを行う～

このワークを通して、女性を想像しましたか？男性を想像しましたか？正解はないが、それがみなさんのマインドセットであることを認識し、自身のマインドセットの傾向を理解しておくことが大切。人間は少なからず思い込みをもって生活しているがそういったマインドセットを変えることが必要であると述べた。

1つに性別による「こうあるべきだ」というマインドセットに女性たちは苦しんでいる。自信のない女性が多いが、能力が無いことは別である。女性が自信がないのは自信を持てる場を与えられなかったから。どうやって自信をつけていくか。大事な点は自信を持つこと。小さな成功体験を積み上げ、自分を褒め、小さなことを達成していくということ。そしてあなたの

誠意や気持ちが伝わるよう、言語化して伝えるスキルを身に付ける。人生は長い、自分で決める人生をつくりましょうと説明した。

最後に、コミュニケーションは「返報性」で成り立っている。次に自分の誠意や気持ちを伝えるために、相手にわかるように言語化し、相手の分かる順番に話す。阿吽の呼吸はもはや前提条件ではない。人を動かすロジカルな話し方を意識し、自分の考え方を整理し、時にエビデンスとして数字を出しながら意思決定の精度をあげるのが大切と受講者に伝えた。



(自由記載欄より抜粋)

### 【うるま市開催】

- ・無料で素晴らしい講座がきけて、本当にラッキーです。今日を分岐点として、有意義な人生を送りたいです。3人の素敵な女性に出会え感謝です。
- ・この講座を無料で受講できるなんてとても貴重な講話でした。今の世代、次世代を担う若者にもっと関心を持ってもらいたい分野。自治体や行政だけではなく、身近なところから男女共同参画を広めていけるといいと思った。受講して本当に良かったです。いずれ県外に出ることがあるのでその時に今回の事も活かして仕事していけたらいいと思いました。幸喜さんのお話、共通点が多くて特別なことではない。まずは行動、意識改革なんだと思いました。村山先生と高田先生のお話は対極にあるように感じましたが勉強になりました。
- ・とても楽しく学べました。講師の皆様もありがとうございました。
- ・色々な角度からの貴重な講義を聴くことができとても楽しかったです。
- ・参加したくても那覇だとなかなかいきづらかったのが中部で開催があって良かったです。

### 【YouTube 動画配信】

- ・お二人の先生のお話を伺いながら、画面の一時停止、巻き戻しなど確認し、手元のメモ用紙が30ページ近くになりました。これを整理し、職場で回覧し事後学習とし、職員のスキルを高めていけるものだと思います。
- ・先生方が、一線で走ってくださっているお姿そのものに励まされます。熱い講義を、ありがとうございました。
- ・高田先生の講義は、私が勉強中のほめ達!の考え方と共通する部分がとても多く、非常に納得感がありました。性別を越えて受け入れられる講義だと思います。
- ・講師の顔を見ながらオンラインで受講することは、問題を我が事として思考できます。
- ・御二方の講義を無料で受講できるのは、とてもありがたいことです。本来なら、大学等決められた場所でしか聞けないものを、社会人になって受講できるなんてと思います。いろんな方が受講して欲しいと思います。
- ・オンラインで苦労も多かったとおもいますが、見直して考えたり、隙間時間を利用して数回にわけて視聴するなどメリットも多かったです。このような機会を設けていただきありがとうございました。

参加者の声

主催等

主催：沖縄県・(公財)おきなわ女性財団